

平成二十八年六月十日発行
皇學館論叢第四十九卷第三号
抜刷

第二回秋田県知事選挙

伊
藤
寛
崇

第二回秋田県知事選挙

伊藤 寛 崇

□ 要 旨

戦後間もなく復活した政党の組織力は国政選挙が実施される度毎に一層強固なものになって行つた。それと同時に国会議員の発言および言動が選出地盤に与える影響も大きくなり、地方自治体首長の選出にも関与するに至つた。

第二回秋田県知事選挙は四年前と同じく保守対革新の構図の中で候補者選定が推し進められることになつたが、現職である蓮池公咲知事の去就をめぐり自由党支部内で国会議員同士の意見対立が発生し、最終的に党本部が助け船を出す形で県土木部長の池田徳治に白羽の矢を立て、国民民主党（以下、民主党）がこれに同調し告示三週間前に保守提携が実現した。一方、日本社会党（以下、社会党）を中心とする革新陣営は池田の担ぎ出しに反対した民主党の一部とともに県総務部長の小畑勇二郎を擁立し、これに前回に続いて立候補した日本共産党（以下、共産党）の鈴木清が突如不出馬を表明して小畑支持に回り、県の部長同士が争うという極めて異例の選挙戦が開始された。

選挙結果は保守二党の組織力を十分に活かした池田が小畑に三万七千票余の差をつけて当選した。選挙のノウハウを熟知した人が多い陣営ほど選挙戦を有利に展開出来たのである。

□ キーワード

知事選 保守 革新 国会議員 地方組織

はじめに

第一回都道府県知事選挙は改正府県制⁽¹⁾の下で昭和二十二（一九四七）年四月五日に実施されたが、間もなく地方制度に関する四法律（東京都制、府県制、市制、町村制）および三官制（東京都官制、北海道庁官制、地方官官制）を整理統合して地方自治法（昭和二十二年四月十六日法律第六十七号）が制定され、地方制度の民主化が大きく漸進した。その後、国政・地方自治体の首長および議会議員選挙に関する法律（衆議院議員選挙法・参議院議員選挙法・地方自治法）を整理統合して公職選挙法（昭和二十六年四月十六日法律第百号）が制定され、第二回都道府県知事選挙はこの法律の規定に基づいて実施されることになった。

秋田県においては蓮池公咲知事の任期が昭和二十六（一九五一）年四月四日で満了することから前年の夏以降、知事選の候補者選定に関する議論が本格的に始まった。⁽²⁾ 現職である蓮池知事の去就に内外の注目が集まったが、県議会・報道に対して出処進退に関する説明を一切行わなかったことから保守陣営（自由党と民主党）と革新陣営（社会党と共産党）の候補者選定に大きな影響を与え、四年前とは大きく状況が異なる中で知事選が実施されることになった。

本稿では公選二回目の秋田県知事選挙の動向について新聞三紙『秋田魁新報』、『読売新聞秋田地方版』、『毎日新聞秋田地方版』の記事から考察したいと思う。

1、候補者の選定

知事選の候補者選定は昭和二十六年の年明けから本格的に始まった。四年前の選挙では日本自由党と日本進歩党（のちに民主党）の秋田県支部が保守合同して秋田県民主党を結成し候補者を擁立したが、今回の選挙では自由党と民主党が果たして手を握るかどうかが大きな関心事となっていた。自由党は前年十月以降民主党に対して何度となく提携を申し込んでいたが、民主党は県議会議長問題を契機として自由党よりはむしろ社会党と良好な関係を維持しており、提携のあり方によっては県政界の構図を一変させるおそれがあった。

『秋田魁新報』は正月の特集記事の中で、知事選候補者として現職の蓮池知事が再選出馬を検討していることを紹介し、さらに平沢長吉衆議院議員（自由党県支部長）、笹山茂太郎衆議院議員（民主党県連会長）、細野三千雄前衆議院議員（社会党県連会長）の名前を挙げている。しかしいずれも流動的であるとしていずれかの政党が予想外の人物を擁立する以外の方法として次の四つのパターンを挙げている。⁽³⁾

- ① 自由党が蓮池知事を推薦し、民主党と社会党が提携して笹山をかつぐ。
- ② 自由党と民主党が提携して平沢または党色の薄い人物を独自候補として擁立する。
- ③ 自由党と民主党が提携して笹山か党色の薄い人物をかつぎ、社会党は独自候補を擁立する。
- ④ 自由党、民主党、社会党の三党がそれぞれ独自候補を擁立する。

知事選が本格化するのを前に、蓮池知事は特集「新春の夢を語る」の中で、今年の夢は素直な農村をつくることであり、農村は生き物を相手に生活して行くため人が一番素直に育って行き、そのためにはこまかな情と鋭敏な感覚が

なければならぬと述べ、暗に知事続投の意欲を示した。⁽⁴⁾

正月早々の五日にはまず自由党県支部の幹部会が開かれ、知事選候補者選考委員として平沢・石田博英衆議院議員、鈴木安孝参議院議員、佐藤李之助県議会議員の四人を選び、党内外の折衝に当たることになった。また七日には民主党県支部の打合せ会が開かれ、自由党・民主党・社会党の三党が提携して県政安定の基礎を確立すべきだとの意見が出された。⁽⁵⁾これに対応して社会党は小野忠太郎選挙対策部長が談話を発表して民主党と野党連合を形成することには賛成だが、自由党を含めた三党提携には反対するとの立場を明らかにした。⁽⁶⁾

こうして一月上旬の段階で早々と知事選に臨む各党の基本方針が固まったことになる。自由党は民主党との二党提携、民主党は自由党および社会党との三党提携、社会党は民主党との二党提携で、共産党は単独で選挙戦に臨むことになった。これを受けて『秋田魁新報』は知事選の動向について新たに次の四つのパターンを挙げている。⁽⁷⁾

一、民主党県連の方針通り三党提携の候補と共産党候補の対立となるか

二、社会党がどこまでも自由党を嫌って民主党を保守提携の線に押しやり自由、民主提携の候補と社会党、共産党の各候補との鼎立となるか

三、民主党が自由党を離れて民主、社会提携いをしてその候補と自由党、共産党の各候補との鼎立となるか

四、結局強調がすべて失敗して四党がそれぞれの候補をたてるか

国会の休会明けが間近に迫り、正月中帰郷秋していた国会議員は相次いで上京することから知事選をめぐる攻防は各党が基本方針を示したままその舞台を秋田から東京に移すことになった。

東京でいち早く動いたのは民主党である。三党提携を強く望む笹山県連会長は平沢自由党県支部長に対して同調を求めたが、平沢は「個人としてはその趣旨に全く同感であるが支部にはかった上で回答する」と述べるに止まった。⁽⁸⁾

二十七日には帰郷した笹山と選挙対策委員長の畠山重勇衆議院議員以下の幹部が民主党県連事務所で開催を聞き基本方針を再確認したが、自由党との保守提携を棚上げしてさらに社会党との提携についても不調に終わった場合には笹山自らが立候補すべきであるとの意見が出された。⁹ 民主党内でこの問題をめぐって意見が真っ二つに分かれている中で、笹山は細野社会党県連会長を訪問して三党提携を直談判したものの社会党からは翌二十八日に「自由党をふくむ三党提携には絶対反対する。たゞし民主党が自由党と完全に絶縁するならば野党連合で同一候補を推す用意はある」という反対の意志がはっきりと示された。¹⁰ こうして三党提携はお互いの思惑が露呈する形で早々に頓挫してしまつたことになる。

二月に入ると野党連合の動きが活発化した。七日には社会党から栗林三郎県連書記長、共産党から鈴木清県委員長、労働者農民党（以下労働党）から島田健三支部長が出席して県労会議の執行委員会が開かれ、三党間の連絡強化のため臨時選挙対策委員会を設置して候補者の調整を行うことになった。¹¹

社会党としては柳谷清三郎能代市長を担いで野党連合を実現したいところであつたが、柳谷自身は出馬に消極的だつたため野党連合が実現しない場合を想定して細野会長を独自で推すことを検討し始めた。¹² 間もなく柳谷の真意を探るため非公式に金子洋文参議院議員が接触した。十四日に金子から出馬を求められた柳谷は「市長選挙に出るかもわからぬのに知事問題まで考えることは出来ない」と強く辞退し、¹³ 野党連合も先行き不透明な状況となつた。

こうした中、保守提携を目指す自由党は民主党の協力を得るために平沢会長が党籍を離脱して無所属で立候補するという苦肉の策に打つて出た。¹⁴ 二十六日の自由党支部の首脳部会議で正式に出馬表明すると報じられた。一方の民主党はあくまで三党提携にこだわり続け、二十一日に笹山は県会議員公舎に細野を迎えて四十分にあつて秘密会談を行つたものの社会党はこの問題はすでに党議で否決されたものだという回答を述べるに止まり、結局のところ三党提

携は事実上不可能になった。¹⁵⁾

自由党県支部の選挙対策委員会は二十六日午後二時から県会議事堂で平沢支部長、根本龍太郎、石田、飯塚定輔、村上清治の各衆議院議員、鈴木、長谷山行毅の各参議院議員ら幹部約三十人が出席して開かれ、席上まず根本から「党本部では去る二十三日地方選挙対策委員会を開き全国の知事候補について協議したが本県では県内事情をみるという理由で保留となつているためこの席上で大体の基本的方針だけでもきめてもらいたい」との発言があり、次に石田は「いま我が党の知事候補をきめてしまえばかえつて社民連合を促進するから決定をのばして民主党県連の出方をみた方がよい」と候補決定の保留説を主張し、あわせて平沢支部長の出馬の噂を否定して「知事候補についてはさきの選挙対策委員会で四人の小委員会（平沢、鈴木、石田各国会議員と佐藤李県議）で相談することになつたがこの小委員会で最後の結論はついていないから知事候補はまだ決定しない」との認識を示して候補者の決定を延期した。¹⁶⁾このとき自由党内では平沢を推す根本をはじめ同党国会議員団と現職の蓮池知事を公認候補にしようとする石田との間で対立が発生しており、早急にその調整を行わなければならないという党内事情があり決定が先延ばしになつたのである。¹⁷⁾元々石田は根本と同じく次期知事候補者として平沢擁立を考えていたが、前年八月に発生した両者の対立をきっかけに蓮池支持に動くことになつた。蓮池知事は参議院議員選挙直後に第三者を介して密かに石田に対し自由党への入党を申し入れた。これに対し石田は「選挙前で吉田総理が秋田市に行つた当時ならいざ知らず、選挙で我が党が大勝してしまつてからでは遅いと思うがとにかく相談してみよう」と根本に話をもちかけたものの、当の根本は八月ごろ林譲治副総理と共に秋田市に来た際にこのことを外部にもらし、しかも「わが党としては蓮池氏の入党は保留するだろう」と公言したことが県内に大きく伝えられて蓮池知事は県議会で苦境に立たされる羽目になつた。以来、石田は「蓮池知事に依頼された自分の蓮池知事に対する信義が立たない」として蓮池支持に回つたのである。¹⁸⁾

自由党内二派の抗争はさらに激しさを増して行ったが、三月二日に国会内での平沢・石田衆議院議員、鈴木参議院議員らの話し合いによって十一日に結論を出すことで意見が一致した。⁽¹⁹⁾その前提としてまず根本と石田が対立する原因となった平沢と蓮池知事のどちらかを候補者に擁立するという案は破棄することになった。さらに十日の自由党本部選挙対策委員会の終了後、佐藤栄作幹事長が知事候補公認問題について「県支部で選考委員会を開いて得た結論を本部の選挙対策委員会にはかり正式に決定することになったが現在のところ従来うわさのほつた候補者たちの影は薄れて新しい候補者が飛び出すことになるかもしれない」と述べ、自由党本部が助け船を出す形で二派の対立に終止符を打つに至った。



池田 徳治
〔『夕刊秋田魁新報』
昭和26年3月12日1面〕

と思う」と出馬に前向きな態度を示した。⁽²¹⁾

保守統一候補者として池田の出馬が明らかになったことを受けて、蓮池知事は次の声明を発表して再出馬を断念した。⁽²²⁾

秋田県民主党を中心とする保守各派の推挽とこれを基盤とする県民各位の御支援との下に私は五年近くにわたり、多事多難であつた秋田県政に粉骨碎身全力を公に捧げて今日に至つたが、秋田県政の今後においても、保守

政見を根幹とする堅実果敢な建設への歩みが最も重大であると確信している。それで私は来る四月選挙に対処し県下各方面の候補者の決定に関する経緯と動向とに深く注意を払つて来たが、おおよそその動向の見通しの付いて来た昨今の段階で、私が年来の所信に向つて邁進するために、最も重大なしかも緊急な使命は、自民両党支部長が対戦する様な事態を避け、私自らも自民両党の間を積極的にあつせんして県民各位の期待に添い得る公明中正な人材の中から、両党で支持する候補者を共に選んで、両党提携の上に、県政の強化を図ることであると確信し、過般来両党の間に相談を進めてきた。この結果両党共通の知事候補者として、豊富な経験の上に立つて、手腕識見においても、その人格からも、衆望を負つておられる池田徳治氏を推せんことが出来たことはまことによるこびに耐えない、この上は私も安心して残された任務の遂行に努めてゆくが、今日まで御支援御激励下さつた各位におかれても、何卒事情を了とせられ、私の心境に共感をいただき、いよいよ秋田県政の強化に渾身の熱情を傾倒される様、衷心より願ひする。

十一日、自由党と民主党はそれぞれ選挙対策委員会を開いて、池田を保守統一候補者とすることを全会一致で決定した。翌十二日午前、県庁で蓮池知事の立会の下、池田に対して出馬の交渉を行った結果、将来における保守提携の強化を要望して立候補を受諾した。⁽²³⁾ こうして紆余曲折の道のりはあつたものの保守提携が実現した。

一方、遅れを取つた社会党は自由党を外した民主党との二党提携あるいは共産党・労農党との三党提携を模索していたが、民主党が自由党との保守提携に動いたため、あらためて独自候補の検討をしなければならなくなつた。社会党県連では十二日夜から十三日朝にかけて県会議事堂同党控室で緊急選挙対策委員会を開き、細野会長を出馬させることで意見が一致し、十五日にあらためて選挙対策委員会を開いて正式決定することになった。⁽²⁴⁾ところが、十五日の選挙対策委員会では候補者に決定したのは細野ではなく、県総務部長の小畑勇二郎だつた。この間、保守分断に方針転換

した社会党は細野、川俣清音前衆議院議員等が同日夜に蓮池知事を訪ねて小畑の出馬要請を加速化させる一方で県庁の部課長に対して小畑の担ぎ上げを働きかけた。しかし当の蓮池知事は小畑擁立には消極的⁽²⁵⁾で、小畑自身との会談でも池田に対抗してまでは立候補しないということで見解が一致し、翌十六日にこの事が社会党県連に伝えられた⁽²⁶⁾。実はこのとき小畑は民主党県連から秋田市長選の候補者に推されており、小畑をめぐる情勢はかなり流動的であった。

その一方で、今度は保守統一候補として池田を擁立したことに反対する民主党の一部に小畑擁立に同調する動きが



小畑勇二郎

〔秋田魁新報〕

昭和26年3月28日1面)

現れ始めた。最後まで蓮池知事の擁立を目指していた民主党の菊地時之助県議会議長と京野孝之助前県議会議長は十七日に社会党県連顧問の奥田信吾米内沢町長、小野選挙対策委員長らと会見し小畑擁立について話し合いを行った。さらに社会党は党外工作にも着手し、蓮池知事擁立を支持していた町村長に対して小畑支持を強く働きかけ、「小畑氏の自重的態度を尻目に社会党と蓮池ライン合作の保守統一戦線破壊工作」を開始した⁽²⁸⁾。

小畑の引き出し運動は県町村会、県内の土建会、青年会などを巻き込んで盛り上がりを見せたが、知事選と市長選の候補者に浮上した小畑がどちらに立候補するのか内外の注目が集まった。市長選については二十一日に平沢自由党支部長に対して不出馬の意向を表明した⁽³⁰⁾。小畑の知事選出馬が日増しに高まる中で、二十二日には石田代議士から出馬辞退が勧告された。石田は「自分の意とするところはよくわかってくれたと思うし期待に副ってもらえると思う。廿一日北秋町村会代表の桜場、奥田ほか三氏と会見の際も私の考えを述べ、奥田氏を除いては大体了解してくれた。県出馬すればもちろん政敵として闘うし当選してもわが党は小畑氏と絶縁する旨を小畑氏には伝えた」と語り、小畑は「石田氏から情理をつくした出馬断念の勧告を受けた。ただ私は最早私個人の考えで進退を決められない段階にき

ているから慎重に考慮すると答え」るに止まった。³¹⁾

小畑が正式に出馬表明を行ったのはそれから五日後の二十七日のことである。『秋田魁新報』の取材に対し決意を次のように語った。³²⁾

今回の知事選挙にあたり、県庁部内でも先輩の池田さんと争わねばならぬことになったのは遺憾だ。何とか円満に解決したいと十数日努力したが、収拾困難となりけつ然立って大義名分を明らかにするよりなくなつた。池田さんが立候補した経緯は一部少数の東京会談によつて突然決定され県民の世論が全く無視されたことはすでに周知の通りでこの間社会党の熱烈な推薦に対し幾度も再考慮を求められつつある内に一方前記東京会談に対する県民の非難が次第に高まり遂に保守党内分裂を来たし、またこれに義憤を感じた各階層の代表の方々により強いおすゝめを受け最早や民主々義擁護のためこれ以上しゅん巡を許されぬ情勢になつた。県政の現状は幾多の重要問題が山積し民生安定上最も総合普遍的な施策の樹立と断行を必要とする秋なのでこれまでの経験を生かすとして皆様から直接お話を承め機会を多く持ち誠実にして敬虔な公僕となつて民主的県政樹立のために微力を尽くすことも意義ありと感じ遂に立候補の決意をした。

同じ県庁の部長同士が知事の座をめぐつて争うことになることから小畑自身出馬するかどうか相当悩んだことは確かであるが、思ひのほか意思表明に時間がかかったため引き返すタイミングを失つてしまひ出馬せざるを得なくなつてしまつたことは言うまでもない。

こうして自由党と民主党の保守提携によつて候補者に擁立された県土木部長の池田徳治と社会党を中心とする革新陣営と民主党の一部有志から推された県総務部長の小畑勇二郎が知事選に立候補することになった。さらに共産党からは前回に引き続き鈴木清が出馬することになった。³³⁾

池田と小畑の略歴は次の通りである。⁽³⁴⁾

池田氏略歴 秋田市出身、大正十年東京帝大工学部卒業後内務省に入り、雄物川改修事務所をふり出しに秋田、青森、岩手県における内務省の河川、港湾等の工事で腕をふるい、仙台土木出張所長に進み、内務技監に擬せられていたが郷里秋田の懇望で昭和二十一年十二月初代県土木部長に就任昭和二十二年の大
水害の復旧等に尽力今日に至つた、満五十九歳。

小畑氏略歴 北秋田郡早口村出身、秋中卒、北秋田郡下の小学校教員をしばらくやり昭和九年北秋田財務局勤務を経て同十四年県庁に入り庶務課員として予算編成事務に携り文書課長、調査課長、庶務課長を歴任、
蓮池知事の認めるところとなつて総務部次長民生部長となつたが民生部長としては能代、鷹巣大火の
処理、児童会館の建設等に腕を振り昨年三月総務部長となつた異数の出世組、満四十四歳。

2、知事選挙の告示

四月三日、第二回秋田県知事選挙が告示され、三十日の投票日に向けて二十八日間の選挙戦に突入した。立候補の受付は二十日までの十八日間にわたつて行われ、池田と小畑は初日の午前中に早々と届出を行つた。⁽³⁵⁾二人とも無所属での立候補となつたが、政党的バックアップを受けて池田は自由党と民主党の国會議員を総動員した言論戦、小畑はあくまで地を這うような滲透作戦で選挙戦に臨もうとしていた。⁽³⁶⁾

こうした中、池田と小畑の選挙戦に微妙な影響を与えようとしていたのは共産党の動向である。三日の告示以降も表立った動きを見せなかつたためその動向に注目が集まっていたが、八日午前に至り前回に続いて鈴木清が立候補の

届出を行った。⁽³⁷⁾

立候補に当たり、三人は次のように抱負を述べている。⁽³⁸⁾

池田氏 ― 恵まれた資源の活用

政治の大道は大義を明かにし民生を安定させることに基盤を有する点を考え、厳肅な自己批判のうえ、自らの良心に問うて今回の立候補は断じて政治の大義を誤らないことを確信する。

本県は豊富な木材を初め未開発の漁場、電源、田畑、地下資源など誠にめぐまれ、これに加えて勤勉純情な百卅万県民を有している。もしこれが活用の政策によるしきを得れば必ず各種産業の隆盛を見県民各位の生活と文化の向上をもたらし、平和日本に寄与するところじん大であると信ずる。

これがためには過去の県政に鑑み第一に議決機関ため県議等に安定勢力を持つことが必要で、この意味で今回私が自民両党のご支援のもとに立候補したことを喜びとしている。

第二には県行政の執行機関たる県庁を県民の要望する厳正な綱紀のもとにおくとともに民間有識者の意見が十分に反映し得る態勢におき、官僚臭なき民主主義的な執行機関たらしめたい。第三は豊富な資源を活用し各種生産事業の隆昌をはかるため治山治水を始め電源などその他広義の土木行政を活発に遂行すべく必要な資金の獲得や金融に万全を期したい。第四は教育文化の振興、婦人児童の福祉増進、公衆衛生の充実、災害の予防または戦災引揚者や身体障害者の再起安定策等全般的に研究勘案し勇断をもって実行に移したい。

小畑氏 ― 豊かな県政実現に努力

私は県民世論に心えて立候補した。世論とは、天降りのな政策の掛引で踏みじろうとする独裁的横車への義憤の結晶である。地方自治法の建前からいっても過去に見る中央集権的な暗躍や画策は断固排せしななければ

ならない。

しかるに今回の知事候補選出の経緯は一部の東京会談で政略と掛引から生まれたもので、政略を本位にして地方行政をけがすことは県政百年の大計をあやまるものだ。

私の行政態度はあくまで各市町村当事者、産業、経済、金融各界代表者、中小企業並びに勤労働く農山漁民や一般青年婦人はもち論、身体障害者や未亡人の方達とも肚をうち明け、明朗秋田県政の実現にある。

私の行政施策の大要は、第一に県庁は県民のためのものだから徹底的に庁内の民主化と能率化をはかり各市町村現場と密接な連携をはかり懸案の県財政確立を期したい。

第二、本県ほど地下資源や奥地資源にめぐまれながら、なおかつ貧乏県のそしりをまぬかれないのははなはだ遺憾で、直ちに原料県から生産県への躍進を期し、その恩恵が中小企業者にも及ぶよう金融対策の確立、県外市場の獲得、外客誘導等にも努力したい。

第三、県農業充実のため土地改良の徹底と協同組合の強化、開拓者の指導援助、漁場開拓、漁ぞく養殖、とくに農山漁村の二三男対策をたて一方農村工業化には新しい企画と実行によって望みたい。

第四、毎年くりかえす水災害への根本対策に植林、護岸、河水統制を充実し、公共事業費の増大とその財源の確保には永年の体験を生かして大いに努力する。私は専門技術はもたないが総合普的な企画制がある。慎重は期するが公約は実行する。広く意見は聴くが決して時期は逃さない。体は大きくないが精力は絶倫だからもし当選すれば身を粉にしても明るい豊かな秋田県政実現のため努力精進する。

鈴木氏 ― 県庁内の派閥を一掃

保守連合戦線ははっきり戦争とファシズムを目的としている。これを県政と結びつけることによって植民地

的奴隷化が行われる。勤労大衆の立場からこれと戦い県の農業や産業を戦争破壊から救い常日ごろの念願である県財政六十二億の四二パーセントを占める土木費を巡る不正や腐敗がだんだん派閥を生み池田君出馬に対して小畑君の対立的立候補となった。どちらにせよ政策的には蓮池県政の首のすげかえにすぎぬ。然も社会党はこれらの情勢に何ら検討も加えることなく小畑君を担ぐに至ってわれわれとしても独自の立場で行動せざるを得なくなった。

ただ小畑君は勤労大衆の立場に立ちはっきりした政策をしめすならば問題は別だが今の所社会党推薦でありながら特別社会主義的政策も盛られていない。

つまり一般大衆の気持を代表するものとはいえないのである。以上の立場から私は自民に対する統一戦線を結集し選挙を通じて戦争とファッシズムから人民大衆を守ための闘争を展開する。急を要する施策としては県政から土木事業の不正を一掃する。交際費や食糧費の全面削除、県庁内の派閥の一掃などがあり勤労大衆の幸福のために社会党再建派、労農党、働く大衆を基盤に県民を三分する戦いに望む決心をした。

こうして選挙戦は三者鼎立の状態に進もうとしていたが、共産党は十八日に県記念館で公開全党会議を開き、鈴木の出馬を辞退させ、民主党の一部と社会党県連が推す小畑を統一候補として応援することを決定した。³⁹突然の方針転換の背景には共産党・社会党が主張する全面講和論と自由党と民主党が主張する早期講和論の対立があり、鈴木が会場で述べているように、「私は立候補を辞退し反自由党の線で小畑候補を支持、あすから勝利のために全力を尽くすことにした。しかし小畑候補や社会党に対する批判はやめない。小畑候補が勝つのは小畑個人ではなく大衆が勝つことなのである。党としては小畑候補に何らのひももつけない。全く独自の支持であり自由党を倒すための統一戦線」を結成しようとしたのである。⁴⁰これに対して社会党の小野選挙対策部長は談話を発表して小畑の反共反自由の立場に変

わりがなく、あくまで共産党とは無関係であることを強調した。

二十日の立候補届出の締め切りとともに池田と小畑の一騎打ちが確定したが、独自候補の擁立を見合わせた共産党が自由党打倒のために小畑を支持するという極めて異例の選挙戦が展開されることになった。

3、選挙戦の動向

三日の告示とともに、池田は秋田駅前木内百貨店の二階に、小畑は県庁前大同ビル前の旅館の二階にそれぞれ事務所を構え熾烈な宣伝合戦をスタートさせた。⁽⁴¹⁾中盤に入ると個人演説会も始まり、池田は七日夜に県記念館で、小畑は八日夜に超満員の神宮寺小学校でそれぞれ第一声を上げた。二人の演説は対照的で、池田が原稿を追う朗読型であるのに対して小畑は決して能弁ではないものの誠実な説得型だった。⁽⁴²⁾



蓮池公咲
〔『毎日新聞秋田版』
昭和26年4月11日4面〕

そうした中、四日には蓮池知事の公選知事としての四年間の任期が満了した。上京中に前知事となった蓮池は九日に秋田に戻り、十一日午後には県庁職員に対して退任のあいさつを行った。⁽⁴³⁾新しい知事が決まるまでの代理は渡辺瑞美副知事が務めることになった。蓮池知事の元部下である二人の部長同士が争うことになったことから、内心はかなり複雑な思いであったことは間違いないが、自らの軽率な行動によって内外に混乱を生じることを危惧してあくまで中立の立場を堅持しようと懸命だった。その結果、十四日には「水害や火災で苦しんだことは終生忘れられない。これで尊い幾多の経験も得た。今後も秋田県として実現しなければならぬことは沢

山ある。どなたの知事でもお求めあれば喜んでお手伝いさせていただきます。最も関心の深い今回の知事選挙だが私の過去五年の経験から去る三月十一日の声明が私の所信として貫いてきたところで県民各位は積極的に今回の選挙に対処し最高率の投票で地方政治確立に努められるよう祈って止まない」というメッセージを残して家族同伴で東京へ引き揚げてしまった。⁽⁴⁴⁾

蓮池前知事の離秋を尻目に、十一日の西馬音内小学校を皮切りに立会演説会が始まった。政策についてまず池田は「安定した県政の基盤と県選出国会議員の協力によって強力な行政を進める」ことを強調し、一方の小畑は「中央集権主義を排し、県民そのものを基盤として産業、経済、文化などの施策を実行する」ことを掲げた。この演説会には出馬辞退前の鈴木も出席しており、池田と小畑が立候補するまでの経過とその対立について「蓮池県政打倒を叫びながらその支柱をかついで平然たる社会党のダラシなどは以ての外である。池田、小畑の争いは目クソと鼻クソのケンカである」と罵倒して聴衆の関心を誘った。⁽⁴⁵⁾ また十六日には十二回目となる公営の立会演説会が土崎で行われ、多数の来場者が訪れ大盛況となった。⁽⁴⁶⁾

一騎打ちが確定した二十日に二人が発表した政見は次の通りである。⁽⁴⁷⁾

池田徳治

知事は住民の直接選挙であり政党の支持は要らない。或る時は議会勢力と対立し抗争することによって地方自治の進展がある……と説いている者があるようだが、異論も甚しいと言わねばならない。

民主議会政治においては、政党の政策綱領によって、国民が思うところの代表者を選挙するのであるが、県政においてもその通り、県議に多数の議席をしめる議員の所属政党は、それだけ県民の支持を得ている証左であり、県民の与論を代表するものである。

地方公共団体の首長が、その議会と対立抗争して、如何なる結果を生ずるかは、今更言うまでもないことであり、この意味において今回の私の立候補は保守提携の基盤に立ち、将来の県議会に安定力を予想される点において、円満なる県行政の遂行上、何よりの喜びとするところである。

私は飽くまでも県会議員の意思を尊重し、県民副利のための施策を断行する考えであるが、先ず県庁を、民意尊重、民意反映の執行機関たらしめることが必要であろう過去の県政に徴し、県庁が未だに官僚臭を云々され、派閥人事の弊を露呈していたことは、遺憾に堪えないところである。県庁の綱規を正し公平な人事を行い、適材適所配置によつて事務能率を昂め、民間達識の意見が充分反映されるものと致したい。このような根本的な行政態度を確立した上、県行政全般に科学性と合理性を盛ってゆくのが私の今の念願である。

本県の有する資源を活用し、広汎な部門の産業を興すにしても、単なる思い付ではなく、世界経済の一環としての日本経済、それに即応する県経済の在り方を検討し十分に科学的な調査研究を経て具体的な施策樹立を図りたい。

先ず農業部門に見ると技術の指導もさることながら、最も肝要なのは農協組の再建と関連して個々の農家経営の指導であると思う。

農業県である本県においては農業施策の如何が多数県民の生活を左右するのであるからこの点特に慎重を期したい。

商工金融の確立も中小企業の振興に不可欠の条件であり、資金の導入、販路の斡旋等万全を期さねばならない。又当面の問題として治山治水事業の完遂があり、その過程における電源の開発は私の最も期待と抱負をもつものであるその他教育文化の振興老幼婦女子、戦災引揚者等への保護政策も是非実現したい考えである。

小畑勇二郎

「平和を愛する吾が党であるから、東京で決め様が何処で決め様が、吾が党の推薦候補を無条件で選ぶのが平和促進の道である」とか「小畑が当選しても代議士達が協力しなければ、自滅する外ないだろう」など、放言している者のある事を聴くが、このような地方自治の冒険者や独断者があればこそ敢て小畑が立候補せずに居られなかったのです。

この点四年前の地方選挙に比べ、今回は「地方自治への生長をどれだけ遂げたか」を世に問うものとして、単に個人小畑と池田が争うのでなく、首長公選の原則に立って、県民輿論の知事が地方自治を護り通すか、天降り知事が地方自治を汚すかの一戦とも言える訳でこの審判は目覚めた百三十万県民の公正な判断によって、決定されるものと信ずるのであります。

小畑はたゞ「至誠こそ何物をも貫き通す」という信念に燃え、常に謙虚と誠実を忘れず、出来るだけ多くの人に接触し、その接触の中から県政安定の進路と調和を見出して参りたいと存じます。

今の小畑は区々たる俗論や興奮から離れ、「如何にして本県の豊かな資源を活かし、窮乏している県や市町村の財政を救い、県民の實際生活を明るくすべきか」の総合一貫的な計画樹立で、一杯であります。

地方自治確立の根本問題は色々ありますが、第一、思い切つて県政民主化と行政簡素化を図つて健全財政の確立に努め、第二は原料県の汚名を返上して生産県に生きる総合有機的な施策を立て、第三は農山漁村に対し改良奨励事項の徹底を期する一方、多角合理的経営の促進によって二、三男問題の解決も計り、第四は商工金融の対策と技術の向上販路の開拓に努力して中小企業に活路を与え、第五は治山治水施策によって災害の根を絶やし、第六は新教育制度の魂入りによって教員も児童も文化秋田の建設に専念出来る様にし、第七は未亡人、

遺家族等の福祉と育英制度の確立を計ると共に住宅難の解消に努め、第八は勤労大衆やいわゆる恵まれない人々のため生活上、福利厚生に道を拓く事等を大方針として、一步一步実践に移して参りたいと存じます。小畑は従来の長所を撰取して更に新しい施策を生かし、政略や暗躍に迷わず、祖国を売る共産党とははっきり一線を画し、ただ県政の為に県民と共に生きる決心です。

満腔の御支援をお祈り致します。

4、結果予想

池田と小畑は予定通りの選挙戦を展開したものの終盤戦に差し掛かると民生委員と教員組合を使った小畑の滲透作戦が相当効果を上げていると伝えられ、これ以降両者の選挙戦は出馬に当たって県民に示した大義名分はあまり意識

【表1】結果予想

市 郡	秋田魁新報		読売新聞 秋田地方版	
	秋田鹿北山南河由仙平雄全	五分池五分小池池池五分池池	五分田五分畑田田田五分田	五分池小小池池池小五分池

されなくなった。⁽⁴⁸⁾ 先行き不透明な状況の中で、『秋田魁新報』と『読売新聞秋田地方版』は選挙結果を次のように予想している。⁽⁴⁹⁾

【表1】を見ても明らかのように、二紙ともに保守統一候補者である池田の優勢を伝え、その差は僅少としている。しかしながら小畑は知事選と県議選を連動させて選挙戦を行っており、二つの選挙を切り離して戦ってきた池田にとってはここが大きな盲点となっていた。二紙の結果予想に左右されることなく、開票前の両陣営は勝利を確信していた。⁽⁵⁰⁾

5、 投開票結果

第二回秋田県知事選挙は四月三十日に実施された。当日の有権者数は六七万九三三人（男性三万二八七〇人、女性三万八〇六三人）で五万七七一七人（男性二万八八八四人、女性二万九一七三五人）が投票した。投票率は八六・五五パーセント（男性八九・五〇パーセント、女性八三・八二パーセント）だった。四市九郡の投票率は【表2】の通りである。開票は翌五月一日午前八時から各市町村一斉に開始されたが、最初から池田が一万票余を引き離して小畑を追い付かせず、午後〇時半過ぎに池田の得票が二七万を突破して当選が確定した。⁽⁵¹⁾

当選 二九三、六二二票 池田 徳治（無所属）

次点 二五六、一四八票 小畑勇二郎（無所属）

二人の得票率は池田が五三・四一パーセント、小畑が四六・五九パーセントだった。四市九郡の開票結果は【表3】の通りであるが、池田の勝因は自由党と民主党の組織力に支えられ、当初苦戦を予想されていた仙北郡で四万三千票余りを得票して小畑をリードし、さらに由利郡では池田が二倍強の差をつけるなど予想通りの結果を収めたからである。⁽⁵²⁾一方の小畑は社会党の組織力が一番の頼りであったが、鹿角郡と仙北郡を池田に攻略されるなど全県で展開した滲透作戦が思うように進展しなかつたため敗北の憂き目に遭った。『読売新聞秋田地方版』は小畑の敗因を次のように指摘している。⁽⁵³⁾

知事選を顧みて特に印象づけられたのは戦前小畑派が絶対優位を豪語した仙北が池田の四万三千に対し小畑三万八千と逆になったこと、小畑が六対四と甘く踏んだ由利が保守伝統の強味を發揮して池田派が小畑派を二倍

【表2】 第1回秋田県知事選挙投票結果

市	郡	当日有権者数	投票者数	投票率
秋田	市	68,243票	54,691票	80.14
能代	市	25,701票	21,995票	85.58
横手	市	18,406票	16,593票	90.15
大館	市	15,665票	13,591票	86.76
鹿角	郡	37,407票	31,529票	84.29
北秋田	郡	71,527票	62,106票	86.83
山本	郡	46,268票	38,623票	83.48
南秋田	郡	75,387票	63,072票	83.66
河辺	郡	23,990票	21,323票	88.88
由利	郡	74,647票	67,234票	90.07
仙北	郡	100,101票	86,887票	86.80
平鹿	郡	51,339票	46,441票	90.46
雄勝	郡	62,252票	56,632票	90.97
県	計	670,993票	580,717票	86.55

※秋田県選挙管理委員会編『選挙の記録－昭和21年至昭和33年選挙結果総覧』。

【表3】 第2回秋田県知事選挙開票結果

市	郡	池田徳治 (無所属)	小畑勇二郎 (無所属)	有効投票総数
秋田	市	26,675票	27,272票	53,947票
能代	市	11,091票	9,789票	20,880票
横手	市	8,132票	7,761票	15,893票
大館	市	4,910票	8,288票	13,198票
鹿角	郡	13,938票	15,825票	29,763票
北秋田	郡	16,524票	42,317票	58,841票
山本	郡	21,770票	13,798票	35,568票
南秋田	郡	35,925票	22,755票	58,680票
河辺	郡	12,128票	8,155票	20,283票
由利	郡	42,120票	20,818票	62,938票
仙北	郡	43,560票	38,798票	82,358票
平鹿	郡	24,745票	18,971票	43,716票
雄勝	郡	32,105票	21,601票	53,706票
県	計	293,623票	256,148票	549,771票

※秋田県選挙管理委員会編『選挙の記録－昭和21年至昭和33年選挙結果総覧』。

の大き差でノックアウトする一方小畑七、池田三と見られた鹿角が互角の相撲となり、この三郡で勝敗を決した。根本代議士に対する反感をあおって立った仙北の小畑が牙城とたのむ角館地区でむしろ池田派に圧倒されたなど反自由反池田の金城湯池といわれる地区がいずれも敗北に終わっているなど社会党勢力の頹勢を物語るものがある。根本代議士に名をなさしめた北秋における小畑七割獲得は石田、畠山、両代議士を向うに回した奮戦だけに目覚しく鹿角郡は参謀山本修太郎をか、えながら池田派と互角の相撲しかとれなかったのは古い政治策士の凋落を示している、か寂しく、全般的に見て蓮池氏の参謀であった小畑氏が節義を変えて社会党と組んだことの不利と池田派の猛烈な反共運動によって大勢が左右されたものとみられる。

【表4】保守と革新の得票数

選挙	保守		革新		その他	
	得票数	議席数	得票数	議席数	得票数	議席数
県議会	299,314	27	96,149	6	167,802	17
(%)	53.14	54.00	17.07	12.00	29.79	34.00

6、県議会議員選挙との関わり

知事選と同日選となった県議会議員選挙では小畑支持に動いた民主党の重鎮である菊地前県議会議長や京野元県議会議長、さらに社会党の前書記長関山繁之助などの大物議員が落選するなど大番狂わせが起こったが、その一方で新人二八人が当選した。⁽⁵⁴⁾

【表4】を見ても明らかのように、知事選と県議選の保守陣営の得票率はほぼ同数であり、県議会でも過半数を超える二七人が当選するなど自由党と民主党の保守提携は成功したことが分かる。一方の革新陣営は県議選で前回の得票率一八・〇〇パーセントよりも低下しており、社会党を中心とする野党連合の形成と候補者擁立の出遅れ、さらには四年前の選挙の教訓が全く活かされなかったことが明らかとなる。小畑の得票は社会党の組織力と共産党の独自支援によるものというよりは反池田票すなわち保守批判票がその主たるものだったと言える。落選した小畑は間もなく秋田市助役に就任し、四年後の知事選に再起を期すことになる。⁽⁵⁵⁾

第2回秋田県議会議員選挙候補者別得票数

郡市	候補者	所属政党	新旧	立候補届出日	得票数	当落	選挙運動の費用	
							収入金額	支出金額
秋田市 (80.13%)	◎小川 泉四郎 ◎鈴木 大助 ◎小幡 政吉 ◎山信子 平三 ◎金統 資一 ◎花岡 雲	自由党	新	4月3日	8,649票	当選①	30,000.00	22,510.00
		日本社会党	現	4月3日	8,406票	当選①	46,115.00	35,015.00
		無所属	現	4月3日	8,088票	当選②	17,015.00	10,015.00
		日本社会党	現	4月3日	7,258票	当選②	48,330.00	45,025.00
		無所属	新	4月3日	7,256票	当選①	14,550.00	14,550.00
		国民民主党	新	4月3日	6,975票	落選	25,000.00	24,340.00
能代市 (85.59%)	◎宮腰 庄太郎 ◎大塚 政市郎 ◎三浦 亀雄	日本社会党	現	4月3日	7,904票	当選②	60,000.00	23,010.00
		無所属	現	4月4日	7,620票	当選②	30,800.00	9,756.00
		無所属	新	4月3日	5,820票	落選	33,140.00	33,140.00
		自由党	新	4月3日	2,053票	落選	25,000.00	25,000.00
大館市 (86.77%)	◎中田 直敏 ◎土門 幸一	自由党	新	4月3日	9,022票	当選①	34,000.00	21,623.00
		無所属	新	4月4日	4,300票	落選	30,000.00	11,268.00
横手市 (90.17%)	◎武茂 礼治 ◎山本 徳太郎 ◎春日 清	無所属	新	4月3日	6,808票	当選①	20,000.00	11,532.00
		日本社会党	現	4月3日	4,861票	落選	25,000.00	24,450.00
		日本社会党	現	4月3日	4,606票	落選	42,500.00	35,250.00
鹿角郡 (84.29%)	◎青山 倭安 ◎湯瀬 重右衛門 ◎高杉 重良 ◎大川 里衛 ◎大川 喜七郎 ◎山本 吉蔵 ◎豊下 治蔵 ◎小野寺 泰春 ◎菟原 春治 ◎小沢 治	無所属	現	4月5日	6,206票	当選②	60,000.00	27,299.28
		無所属	現	4月3日	5,958票	当選①	50,000.00	14,555.00
		国民民主党	現	4月3日	3,172票	当選②	15,000.00	14,022.00
		無所属	現	4月3日	2,916票	落選	24,000.00	19,540.00
		無所属	現	4月3日	2,787票	落選	62,500.00	18,243.00
		無所属	新	4月4日	2,780票	落選	20,000.00	11,350.00
		無所属	新	4月3日	2,506票	落選	45,000.00	36,515.00
		無所属	新	4月3日	2,369票	落選	20,000.00	13,510.00
		無所属	新	4月3日	1,200票	落選	15,000.00	9,775.00
		無所属	新	4月6日	903票	落選	20,000.00	7,190.00
北秋田郡 (86.83%)	◎畠沢 恭一 ◎成重 重右衛門 ◎斎藤 岩男 ◎藤島 一雄 ◎斎藤 修助 ◎斎山 重信 ◎畠山 源義 ◎川村 純義 ◎乳井 亮太郎 ◎成兵 一郎	日本社会党	現	4月3日	10,720票	当選②	30,000.00	11,960.00
		自由党	現	4月3日	7,631票	当選②	71,600.00	21,836.00
		自由党	現	4月3日	6,513票	当選②	50,000.00	23,595.00
		無所属	新	4月3日	6,492票	当選①	35,000.00	17,110.00
		無所属	現	4月3日	5,503票	当選①	30,000.00	28,430.00
		無所属	現	4月4日	5,483票	落選	10,000.00	6,692.00
		国民民主党	新	4月3日	5,451票	落選	35,000.00	11,038.00
		国民民主党	現	4月3日	4,513票	落選	50,000.00	22,687.00
		日本社会党	新	4月3日	2,733票	落選	30,544.00	30,544.00
		自由党	新	4月4日	2,526票	落選	14,039.00	14,139.00
		国民民主党	新	4月3日	1,631票	落選	50,000.00	33,901.00
		山本郡 (83.52%)	◎山本 友司 ◎工藤 吉郎 ◎大山 勘治郎 ◎山岡 亮助 ◎関田 養助 ◎鳥田 清四郎 ◎成田 権太郎 ◎成田 重武	無所属	現	4月12日	6,624票	当選②
自由党	現			4月3日	6,517票	当選①	50,000.00	34,874.00
国民民主党	新			4月3日	6,310票	当選①	30,000.00	26,630.00
国民民主党	現			4月3日	5,380票	落選	30,000.00	13,375.00
自由党	現			4月3日	5,265票	落選	30,000.00	29,582.60
日本共産党	新			4月3日	4,041票	落選	20,000.00	5,970.00
無所属	新			4月4日	2,115票	落選	76,200.00	32,591.00
日本共産党	新			4月6日	896票	落選	5,200.00	4,495.00
南秋田郡 (83.81%)	◎斎藤 久治 ◎安惣 太郎 ◎坂谷 八直 ◎加賀 谷治郎 ◎栗山 蔵之助 ◎奈良 倉蔵 ◎渋谷 隆司 ◎関山 繁之助 ◎沢野 輝村 ◎諸田 義亮	無所属	新	4月3日	9,314票	当選①	29,400.00	28,430.00
		無所属	現	4月3日	6,961票	当選②	10,000.00	9,300.00
		自由党	現	4月3日	6,906票	当選①	13,000.00	12,800.00
		無所属	現	4月5日	6,560票	当選②	50,000.00	32,210.00
		無所属	新	4月3日	5,557票	当選①	20,000.00	8,983.00
		自由党	現	4月3日	5,382票	当選②	21,400.00	21,310.00
		国民民主党	現	4月4日	4,630票	落選	27,000.00	25,335.00
		日本社会党	現	4月3日	3,996票	落選	50,000.00	29,700.00
		国民民主党	新	4月3日	3,614票	落選	50,000.00	38,892.00
		日本社会党	新	4月3日	3,458票	落選	50,000.00	17,480.00
		国民民主党	新	4月3日	3,427票	落選	46,910.00	46,910.00
		無所属	新	4月3日	1,172票	落選	15,000.00	13,765.00

第二回秋田県知事選挙（伊藤）

河辺郡 (88.88%)	◎鎌田	徳一	治司	自 由 党	新 新	4月5日	6,157票	当選①	40,000.00	35,787.00
	◎加金	藤 一	勇 男	民 所 属	新 現	4月4日	5,265票	当選①	35,000.00	23,050.00
	◎田近	近 猛	吉 悉	無 所 属	新 現	4月3日	5,194票	落選	35,000.00	19,976.00
	◎田近	近 猛	吉 悉	日 本 社 会 党	新 現	4月3日	4,119票	落選	15,284.00	15,284.00
由利郡 (90.07%)	◎伊藤	藤島	為之助	国 民 主 党	現 新	4月3日	8,382票	当選②	30,300.00	15,625.00
	◎中夫	内 文	吉 郎	自 由 党	新 現	4月3日	7,881票	当選①	50,000.00	14,485.00
	◎木内	内 文	吉 郎	自 由 党	新 現	4月3日	7,236票	当選①	30,000.00	24,751.00
	◎猪村	内 文	吉 郎	自 由 党	新 現	4月5日	7,082票	当選②	30,000.00	19,073.00
	◎猪村	内 文	吉 郎	自 由 党	新 現	4月3日	6,685票	当選①	25,500.00	18,179.00
	◎高佐	橋 喜	一 郎	自 由 党	現 現	4月5日	6,206票	当選②	42,200.00	33,250.00
	◎高佐	橋 喜	一 郎	自 由 党	現 現	4月3日	6,079票	落選	35,000.00	26,324.00
	◎松野	野 盛	三 郎	国 民 主 党	現 現	4月3日	5,707票	落選	44,030.00	43,289.00
	◎小鈴	野 竹	三 郎	無 所 属	新 新	4月3日	5,042票	落選	35,000.00	33,312.00
	◎小鈴	野 竹	三 郎	日 本 社 会 党	新 新	4月3日	3,956票	落選	30,000.00	21,315.00
仙北郡 (86.80%)	◎沢口	フク	クニ	自 由 党	現 現	4月3日	9,447票	当選②	50,000.00	47,504.00
	◎武四	無 所 属	無 所 属	新 新	新 新	4月3日	8,795票	当選①	20,000.00	14,260.00
	◎山口	武 郎	郎 郎	自 由 党	新 現	4月3日	8,423票	当選①	50,000.00	15,008.00
	◎田口	芳 郎	蔵 郎	自 由 党	新 現	4月3日	7,789票	当選①	12,250.00	12,250.00
	◎藤原	熊 蔵	郎 郎	国 民 主 党	現 現	4月5日	7,261票	当選②	60,847.00	43,477.00
	◎大野	忠 右	工 門	自 由 党	新 現	4月4日	6,597票	当選①	30,000.00	13,400.00
	◎東京	林 三	郎 郎	日 本 社 会 党	現 現	4月3日	6,357票	当選②	9,300.00	9,300.00
	◎京野	龍 三	郎 郎	国 民 主 党	現 現	4月3日	5,805票	落選	30,000.00	5,436.00
	◎龍有	輪 次	郎 郎	自 由 党	現 現	4月3日	5,182票	落選	20,000.00	9,750.00
	◎有鈴	木 八	郎 郎	自 由 党	現 現	4月3日	5,113票	落選	20,000.00	17,357.00
	◎深浦	文 之	助 郎	国 民 主 党	現 現	4月3日	3,889票	落選	28,791.00	28,791.00
	◎佐野	藤 宗	之 助	日 本 社 会 党	新 新	4月3日	3,569票	落選	29,000.00	21,441.00
	◎野石	深 宗	寿 郎	国 民 主 党	新 新	4月3日	2,694票	落選	15,000.00	6,572.00
	◎野石	佐 藤	儀 右衛門	日 本 共 産 党	新 新	4月3日	2,012票	落選	10,000.00	7,150.00
◎野石	福 次	郎 郎	無 所 属	新 新	4月3日	788票	落選	50,000.00	28,135.00	
◎野石	橋 金	蔵 郎	農 業 党	新 新	4月9日	298票	落選	3,740.00	3,230.00	
平鹿郡 (90.46%)	◎谷山	藤 征	得 郎	無 所 属	現 新	4月3日	10,232票	当選②	20,000.00	12,220.00
	◎柴山	田 忠	一 郎	自 由 党	新 新	4月3日	10,037票	当選①	25,000.00	22,785.00
	◎柴山	本 三	郎 郎	国 民 主 党	新 新	4月3日	9,104票	当選①	25,000.00	24,571.25
	◎柴山	本 三	郎 郎	日 本 社 会 党	新 現	4月3日	7,929票	当選①	40,000.00	32,302.00
	◎柴山	本 三	郎 郎	国 民 主 党	新 現	4月3日	7,452票	落選	30,000.00	22,755.00
雄勝郡 (90.97%)	◎佐藤	藤 秀	自 由 党	新 新	4月3日	6,885票	当選①	30,000.00	14,170.00	
	◎佐藤	藤 英	無 所 属	新 新	4月3日	6,248票	当選①	20,000.00	15,516.00	
	◎阿部	部 英	国 民 主 党	現 現	4月3日	5,445票	当選②	20,000.00	6,560.00	
	◎佐藤	部 英	自 由 党	新 現	4月3日	5,412票	当選①	20,000.00	12,694.00	
	◎佐藤	藤 善	治 郎	自 由 党	現 現	4月3日	5,099票	当選②	20,000.00	11,584.00
	◎深野	菊 地	時 之 助	国 民 主 党	現 現	4月3日	5,087票	落選	20,000.00	12,123.00
	◎高杉	深 久	四 郎	国 民 主 党	現 現	4月3日	4,760票	落選	30,000.00	11,415.00
	◎小山	喜 八	郎 郎	自 由 党	新 新	4月3日	4,230票	落選	50,000.00	18,595.00
	◎小山	橋 源	治 郎	自 由 党	新 新	4月4日	3,499票	落選	32,000.00	27,180.00
	◎山田	文 八	郎 郎	自 由 党	新 現	4月3日	2,192票	落選	11,000.00	7,928.00
	◎山田	山 恒	一 助	日 本 共 産 党	現 現	4月3日	2,125票	落選	25,000.00	13,050.00
	◎栗山	林 恒	来 助	日 本 社 会 党	新 新	4月3日	1,925票	落選	10,000.00	9,710.00
	◎岩岩	藤 川	寅 吉	自 由 党	新 新	4月4日	1,121票	落選	35,065.00	25,035.00
	◎高橋	岩 喜	一 郎	日 本 社 会 党	新 新	4月4日	924票	落選	5,500.00	5,500.00
◎高橋	岩 喜	一 郎	日 本 社 会 党	新 新	4月4日	280票	落選	30,000.00	10,555.00	

※選挙運動の費用は秋選管告示第33号（『秋田県公報』号外、昭和26年5月8日）による。

第2回秋田県知事選挙の選挙運動費用

●精算届の部

知事候補者の氏名	精算届出をなしたる支出責任者の氏名	寄附及びその他の収入の総額	支 出 金 額	
			立候補のための支出	選挙運動のための支出
池田 徳 治	荻原 麟次郎	65,000.00	-	59,415.00
小畑 勇二郎	山田 成 孝	151,500.00	-	113,586.00
鈴木 清	三浦 雷太郎	40,000.00	-	34,725.00

※秋選管告示第33号（『秋田県公報』号外、昭和26年5月8日）による。

第2回秋田県知事選挙・秋田県議会議員選挙得票率

選挙区	秋田県知事選挙（4月30日）			秋田県議会議員選挙（4月30日）							
	池田徳治 （無所属）	小畑勇二郎 （無所属）	有効 投票数	自由党	国民民主党	日本社会党	日本共産党	労働者 農民党	無所属	有効 投票数	
秋田市	26,675票 49.45	27,272票 50.55	53,947票 100	13,878票 25.65	6,975票 12.89	15,864票 29.32	0票 0	2,053票 3.79	15,344票 28.35	54,114票 100	
能代市	11,091票 53.12	9,789票 46.88	20,880票 100	5,820票 27.27	0票 0	7,904票 37.03	0票 0	0票 0	7,620票 35.70	21,344票 100	
横手市	8,132票 51.17	7,761票 48.83	15,893票 100	5,361票 32.15	0票 0	4,506票 27.02	0票 0	0票 0	6,808票 40.83	16,675票 100	
大館市	4,910票 37.2	8,288票 62.8	13,198票 100	9,022票 67.72	0票 0	0票 0	0票 0	0票 0	4,300票 32.28	13,322票 100	
鹿角郡	13,938票 46.83	15,825票 53.17	29,763票 100	6,206票 20.15	3,179票 10.32	2,506票 8.14	0票 0	0票 0	18,912票 61.40	30,803票 100	
北秋田郡	16,524票 28.08	42,317票 71.92	58,841票 100	22,153票 37.42	11,595票 19.59	13,453票 22.73	0票 0	0票 0	11,995票 20.26	59,196票 100	
山本郡	21,770票 61.21	13,798票 38.79	35,568票 100	11,782票 31.72	11,690票 31.47	0票 0	4,937票 13.29	0票 0	8,739票 23.52	37,148票 100	
南秋田郡	35,925票 61.22	22,755票 38.78	58,680票 100	19,249票 31.57	11,671票 19.14	7,454票 12.22	0票 0	0票 0	22,603票 37.07	60,977票 100	
河辺郡	12,128票 59.79	8,155票 40.21	20,283票 100	6,157票 29.69	5,265票 25.39	4,119票 19.86	0票 0	0票 0	5,194票 25.05	20,735票 100	
由利郡	42,120票 66.92	20,818票 33.08	62,938票 100	20,000票 30.79	14,089票 21.69	3,956票 6.09	0票 0	0票 0	26,901票 41.42	64,946票 100	
仙北郡	43,560票 52.89	38,798票 47.11	82,358票 100	28,946票 34.45	19,649票 23.39	15,108票 17.98	2,012票 2.39	298票 0.35	18,006票 21.43	84,019票 100	
平鹿郡	24,745票 56.6	18,971票 43.4	43,716票 100	10,037票 22.43	16,556票 36.99	7,929票 17.72	0票 0	0票 0	10,232票 22.86	44,754票 100	
雄勝郡	32,105票 59.78	21,601票 40.22	53,706票 100	24,742票 44.80	15,292票 27.69	1,925票 3.49	2,125票 3.85	0票 0	11,148票 20.18	55,232票 100	
県計	293,623票 53.41	256,148票 46.59	549,771票 100	183,353票 32.55	115,961票 20.59	84,724票 15.04	9,074票 1.61	2,351票 0.42	167,802票 29.79	563,265票 100	
※下段は得票率（%）を示す				当選 議員数	19人 38.00	7人 14.00	6人 12.00	0人 0	0人 0	18人 36.00	50人 100

7、池田県政の幕開け

当選早々、池田は今後の行政方針について次のように述べている。⁽³⁶⁾

これまで県庁内の人事はとかく派閥的に行われ、これが庁内を暗くした最大原因と思うので、まず第一にこの弊害を一掃したい。特に庶務系地方能の悪習を根本的に改め県の刷新明朗化と民主化のため努力したい。土地改良を中心とする全般的な農業改良事業と農業経営の合理化対策については蓮池前知事の施策の線に沿うて進めて行く方針である。漁港の整備、漁場による漁の開拓業の振興、中小企業の発展、治山治水事業と合せて奥地の電源を積極的に開発すること、教育施設の拡充、社会教育の充実、社会保障制度の徹底、その他民生、労働施策の全般については選挙を通じて県民に公約して来たことを真面目に実行する。

しかし、新知事池田に対して県民が強く望んだことは具体的施策の実行よりも県の部長同士が戦った後遺症を早期に解消すること、すなわち公正な人事と適材適所に有能な人材を配置することであった。初登庁した池田は七日午前57一〇時から県正庁で知事就任のあいさつを行い、県職員に対して選挙結果に左右されず職務遂行に専念するよう求めた。

県政に対する具体的施策は選挙中の公約に重点を置きその立案に当っては各部、課長をはじめ在京諸先輩、県選出の国会議員、県会議員各位と熟議懇談を重ねることは勿論庁員の意見、県民の世論を勘案して決定してゆく所存であるが、特に県民の得心のゆくことを第一前提としなければならぬ。このためには政治の根幹をなす正義の大通を誤ることなきは勿論庁内の綱紀を厳正にして適材を適所に登用すると共に責任の所在を明かにして形式主義に墮することなく、官僚臭なき県庁にしなければならない。今回の選挙に恰も庁内が二分され今後の庁内人事

について一抹の不安を抱く者あるやにきくがこれは私の最も意外とするところで、公務員として本来の職務遂行に専念することと、一個の県民としての投票権の行使をその自由意思によつて行うことは全く別問題で、これを混同することは断じてないものと信ずる。万一かくの如き不安が存在するとすれば一刻も速かにこれを払拭して明朗清新の気を以てその職務に精励されることを望む。ただし共產過激の思想を抱くが如き者は断固排撃する。

執行機関たる県庁としては常に議決機関たる県会と密接なる交渉了解の下に県民の信頼を得る施策を行うよう心がけるべきは当然だが、また一面予算の編成等にも常に内外の財源確保に留意し妥当性を失わず、かれん誅求のそしりを受けざるよう注意致したい。

次に県庁内の執務態勢だが総じて官庁に対する民間の悪声は官僚臭とセクシヨナリズムに集中されている。庁員には公務員法があつてこれを厳守していただけでは往々にして一般民間人から融通のきかぬ尊大ぶつたように考えられ勝ちだから厳守すべき規律はあくまでも厳守し綱紀の頹廢しないよう心掛くべきであり、その欠を補うには極力情愛と徳義心を以てし、また他の部課に関することでも関連性をもつ限り出来るだけ懇切にいねいに処置し庁内からセクシヨナリズムの弊風をなくするようになりたい。

最後に私自ら登庁退庁の時刻を厳守したいと思うので各位も服務規律をまずこの時間厳守の点より実行に移し公僕として実績を示して頂きたい。

さて、改選後の県議会の主導権を握つたのは一九人の当選者を出した自由党だった。選挙直後の五月三日には自由党議員協議会が開かれ、池田県政に対する党の立場について協議し、民主党に対して与党として共同で県政運営を行うため保守提携の申し入れを行った。一方の民主党も二十四日に自由党に対して「県会における保守提携の基本方針に関する申し入れ」を行ったものの、この受け入れを前提とした両党支部長の協議を開く前に県議会の招集日を迎え

てしまった。⁽⁵⁸⁾ 招集日までに結成された会派は次の通りである。⁽⁵⁹⁾

① 自由党（三〇人、五月十一日結成）

小泉四郎、山信田嘉平、大塚政市郎、中田直敏、武茂礼治、青山倭、成田重右衛門、斉藤卯一、工藤庄吉、山本友司、栗山蔵之助、斉藤久治、安田惣太郎、坂谷八十治、渋谷倉蔵、加賀谷直治、鎌田徳治、木内文吉、村岡兼吉、猪股勘一郎、高橋喜一郎、小山田四郎、小松武文、沢口フク、田口芳郎、大野忠右工門、柴田忠一郎、佐藤育秀、佐藤善治郎、佐藤茂吉

② 国民民主党（七人、五月二十八日結成）

高杉重右衛門、谷藤征得、伊藤為之助、阿部英一、加藤一司、大倉勘治郎、山本三郎

③ 社会党（六人、五月二十六日結成）

宮腰庄太郎、小幡谷政吉、栗林三郎、畠沢恭一、柴田久郎、川口大助

④ 明正クラブ（六人、五月二十三日結成）

斉藤修助、佐藤英夫、鈴木寿、中島一夫、藤島岩雄、湯瀬安人

⑤ 第一倶楽部（一人、五月三十一日結成）

藤原熊蔵

三十一日から二日間（後三日間延長）の日程で改選後初の四月定例県議会が招集された。最年長者の沢口フクを臨時議長として開会したものの正副議長の人選をめぐって自由党と民主党間の話し合いがまとまらず初日の選出には至らなかった。第三五代議長に渋谷倉蔵、第三九代副議長に成田重右衛門が選出されたのは翌六月一日の夜半のことである。⁽⁶⁰⁾

議長選挙

◎ 渋谷 倉蔵 (自由党) 三三八票

安田 惣太郎 (自由党) 六六票

宮腰 庄太郎 (社会党) 六六票

副議長選挙

◎ 成田重右衛門 (自由党) 三三八票

小幡谷 政吉 (社会党) 一一二票

正副議長選出後、渋谷議長から池田知事が紹介され、次のようにあいさつを述べた。⁽⁶¹⁾

県議会を開会するに当りまして一言御挨拶申し上げます。各位には今回の総選挙に於て県民の信頼と輿望を担われそれぞれ御当選の栄冠を贏ち得た次第でありまして、将に県政の一大伸張を必要とするの秋、地方自治確立の格別な熱意と抱負を持たれる各位をお迎え致すことが出来ましたことは、県執行部と致しまして也非常に力強い限りでありまして、謹んで此の壇上から御祝意を申し上げますと共に、今後の御自愛と御多祥をお祈りし、併せて県勢発展の爲め切に御尽瘁あらんことを御期待申上げる次第であります。殊に私は県民大多数の御支援によりまして二代目公選知事の職を汚すことになつた訳であります。解決又は推進を要する当面の諸問題が山積して居るのに対し甚だ浅学菲才の者でありまして、今後各方面に亘つて各位の御示教と御協力を煩すことが多々あることと存じますが、私は飽までも県民の公僕として誠心誠意其の職分に精進いたしたい決心でありますので、此の点くれぐれもよろしく御援助をお願い申上げる次第であります。簡単であります一言申上げまして御挨拶に代える次第であります。

三日には「副知事選任について同意を求める件」が審議され、五月十五日で任期満了となった渡辺瑞美副知事が再任された。こうして池田県政が名実ともにスタートしたが、この年は七月と八月に大水害が発生し、さらに十一月には青森県との間で久六島騒動が発生するなど池田知事にとっては就任早々から難題山積みの中で県政の舵取りを担うことになった。

おわりに

第二回秋田県知事選挙は自由党と民主党の保守提携により擁立された県土木部長の池田徳治と社会党を中心とする革新陣営と民主党の一部有志から擁立された県総務部長の小畑勇二郎の一騎打ちの戦いとなった。選挙結果は池田が小畑に三万七千票余の差をつけて当選を果たしたが、その勝因は保守陣営の組織力の強さにあつたと言える。候補者選定の過程で内部対立が発生したものの、知事選候補者として池田が決定すると国会議員および地方議員は当選の目的達成のために総力戦を展開した。一方の革新陣営は小畑を担ぎ出して保守批判票を取り込み受け皿作りを目指したものの出馬の出遅れと滲透作戦が奏功しなかったことから敗戦の憂き目に遭った。

四年前の第一回知事選と大きく異なる点は候補者の選定過程、さらに選挙戦に国会議員が大きく関与していることである。このことは終戦から五年余が経過して政党の地方組織がいかに強固なものになっていたかを示すものである。この四年の間に国政選挙は二回実施され、ともに吉田内閣を支える与党が勝利している。⁽⁶²⁾ こうして選挙を重ねる毎に政党の組織力がアップして行ったことは明らかであり、当然選挙のノウハウを熟知した人が多い陣営ほど選挙戦を有利に展開出来たことは言うまでもない。

池田知事は任期中大きな失態もなく肅々と知事の職務を遂行したものの再選への布石を打つタイミングを失してしまい、また秋田市助役に転じた小畑の再チャレンジの動きに巻き込まれる形で立候補断念に追い込まれた。小畑は自由党と民主党、それに左右両派社会党、県労会議の支持を受けて共産党を除く政党が相乗りする形で優位な戦いを展開し、四一万票余を獲得して四年前の雪辱を果たした。そして六期二十四年間に及ぶ小畑県政がスタートすることになる。小畑知事は公約通り県財政の再建と県庁機構の簡素強化に着手することになるが、長期政権を築く原動力となつた第三回秋田県知事選挙（昭和三十年四月二十三日）の動向については稿をあらためて考察したいと思う。

註

- (1) 昭和二十一年九月二十七日法律第二十七号。道府県制に改題され、都道府県知事選挙については第七十四条第二項から第二十一項で規定されている。
- (2) 『秋田魁新報』昭和二十五年八月三十一日二面。
- (3) 『秋田魁新報』昭和二十六年一月一日三面。
- (4) 『秋田魁新報』昭和二十六年一月一日三面。
- (5) 『毎日新聞秋田地方版』昭和二十六年一月九日四面。
- (6) 『秋田魁新報』昭和二十六年一月十日一面。
- (7) 『秋田魁新報』昭和二十六年一月十一日一面。
- (8) 『秋田魁新報』昭和二十六年一月二十八日一面。
- (9) 『毎日新聞秋田地方版』昭和二十六年一月二十八日四面。
- (10) 『秋田魁新報』昭和二十六年一月三十一日一面。
- (11) 『毎日新聞秋田地方版』昭和二十六年二月九日四面。

- (12) 『秋田魁新報』昭和二十六年二月十六日一面。
- (13) 『毎日新聞秋田地方版』昭和二十六年二月十六日四面。
- (14) 『読売新聞秋田地方版』昭和二十六年二月十六日二面。
- (15) 『毎日新聞秋田地方版』昭和二十六年二月二十二日四面。
- (16) 『秋田魁新報』昭和二十六年二月二十六日一面。
- (17) 『毎日新聞秋田地方版』昭和二十六年二月二十七日四面。
- (18) 『秋田魁新報』昭和二十六年二月二十八日二面。
- (19) 『毎日新聞秋田地方版』昭和二十六年三月四日四面。
- (20) 『読売新聞秋田地方版』昭和二十六年三月十一日四面。
- (21) 『秋田魁新報』昭和二十六年三月十二日一面。
- (22) 『秋田魁新報』昭和二十六年三月十二日一面。
- (23) 『秋田魁新報』昭和二十六年三月十三日一面。
- (24) 『秋田魁新報』昭和二十六年三月十四日一面。
- (25) 『毎日新聞秋田地方版』昭和二十六年三月十七日四面。
- (26) 『秋田魁新報』昭和二十六年三月十七日一面。
- (27) 『秋田魁新報』昭和二十六年三月十七日一面。
- (28) 『読売新聞秋田地方版』昭和二十六年三月十八日四面。
- (29) 『秋田魁新報』昭和二十六年三月十九日一面。
- (30) 『読売新聞秋田地方版』昭和二十六年三月二十一日四面。
- (31) 『毎日新聞秋田地方版』昭和二十六年三月二十三日四面。

- (32) 『秋田魁新報』昭和二十六年三月二十八日一面。
- (33) 『読売新聞秋田地方版』昭和二十六年三月十二日四面。
- (34) 池田は『秋田魁新報』昭和二十六年三月十二日一面。小畑は『秋田魁新報』昭和二十六年三月二十八日一面。
- (35) 『夕刊秋田魁新報』昭和二十六年四月四日一面。
- (36) 『秋田魁新報』昭和二十六年四月六日一面。
- (37) 『秋田魁新報』昭和二十六年四月九日一面。
- (38) 『毎日新聞秋田地方版』昭和二十六年四月十日四面。
- (39) 『秋田魁新報』昭和二十六年四月十九日一面。
- (40) 『毎日新聞秋田地方版』昭和二十六年四月十九日四面。
- (41) 『秋田魁新報』昭和二十六年四月五日一面。
- (42) 『毎日新聞秋田地方版』昭和二十六年四月十日四面。
- (43) 『秋田魁新報』昭和二十六年四月十二日一面。
- (44) 『読売新聞秋田地方版』昭和二十六年四月十五日四面。
- (45) 『読売新聞秋田地方版』昭和二十六年四月十四日四面。
- (46) 『毎日新聞秋田地方版』昭和二十六年四月十九日四面。各会場の入場者数は次の通りである(括弧内は女子)。
西馬音内六〇〇(五〇)、刈和野五〇〇(二〇〇)、湯沢七五〇(三〇)、沼館七五〇(五〇)、増田八五〇(二五〇)、川連
九〇〇(一〇〇)、大曲一二〇〇(二〇〇)、角館一〇〇〇(一〇〇)、六郷一五〇〇(二五〇)、横手一七〇〇(三〇〇)、土
崎二〇〇〇(二〇〇)、和田三〇〇(五〇)。
- (47) 『秋田魁新報』昭和二十六年四月二十一日二面。
- (48) 『秋田魁新報』昭和二十六年四月二十八日二面。

(49) 『秋田魁新報』昭和二十六年四月二十八日二面。『読売新聞秋田地方版』昭和二十六年四月二十八日四面。

(50) 『秋田魁新報』昭和二十六年五月一日二面。開票前の両陣営の結果予想は次の通りである。

池田派 〓あまりにも各郡の予想が圧倒的によく数字はよめない、と大きく出て秋田市、能代市が七割、横手が六割とまず都市部を先に出し、次に北秋、鹿角が四割とさげ山本が六割、由利、南秋、河辺が七割、平鹿、仙北が五割、雄勝が六割とバチバチおいて三十二万とくくっている大見得ぶりである。

小畑派 〓まず地盤である北秋と鹿角で七割次に山本で五割、河辺で四割、南秋で五割、由利で四割とあり問題の秋田市は五割五分、仙北が五割五分、平鹿、雄勝が四割五分で結局二万の差で勝算ありという。そしてこっちはなみいる国会議員を相手に金もなく全く真剣な戦いでありまずと悲壮な面持であった。

(51) 『秋田魁新報』昭和二十六年五月二日一面。『毎日新聞秋田地方版』昭和二十六年五月二日四面。『読売新聞秋田地方版』昭和二十六年五月二日四面。

(52) 『秋田魁新報』昭和二十六年五月二日一面。『毎日新聞秋田地方版』昭和二十六年五月二日四面。『読売新聞秋田地方版』昭和二十六年五月二日四面。

(53) 『読売新聞秋田地方版』昭和二十六年五月三日四面。

(54) 『読売新聞秋田地方版』昭和二十六年五月二日四面。

(55) 昭和二十六年六月二十一日に第十一代秋田市助役に就任した。

(56) 『読売新聞秋田地方版』昭和二十六年五月二日四面。

(57) 『読売新聞秋田地方版』昭和二十六年五月八日四面。

(58) 秋田県議会事務局編『秋田県議会史』第一巻、昭和五十四(一九七九)年四月、四三五～四三六頁。

(59) 秋田県議会事務局編『秋田県議会史』第一巻、昭和五十四(一九七九)年四月、八一六～八一七頁。

(60) 秋田県議会事務局編『秋田県議会史』第一巻、昭和五十四(一九七九)年四月、四三六～四三八頁。

(61) 秋田県議会事務局編『昭和二十六年四月秋田県議会定例会会議録』第二号、昭和二十六年六月一日。

(62) 第二十四回衆議院議員総選挙秋田県選挙区(昭和二十四年一月二十三日執行、投票率七六・五八パーセント)の候補者別得票数は次の通りである。

【第一区(定員四人)】投票率七四・二二パーセント

当選 四四、六三二票 石田博英(民主自由党・前) 当選回数二回
当選 三〇、三四三票 平沢長吉(民主自由党・前) 当選回数二回
当選 二八、三三九票 宮脇喜助(民主党・新) 当選回数一回
当選 二七、二八六票 島山重勇(民主党・新) 当選回数一回
次点 二四、三七七票 細野三千雄(日本社会党・前)

一八、八一七票 島田晋作(日本社会党・前)
一七、二二二票 堀井勇子(国民協同党・新)
一六、五七三票 島田健三(労働者農民党・新)
一六、四六八票 和崎ハル(民主党・元)
九、四一一票 田中健吉(社会革新党・前)
七、七六六票 鎌田千代治(無所属・新)
六、二二九票 山本喜助(民主自由党・新)

【第二区(定員四人)】投票率七九・三〇パーセント

当選 四〇、五〇五票 笹山茂太郎(民主党・新) 当選回数一回
当選 三九、一二一票 飯塚定輔(民主自由党・新) 当選回数一回
当選 三四、五〇〇票 根本龍太郎(民主自由党・前) 当選回数二回

当選 三三、一五二票 村上清治（民主自由党・前） 当選回数二回

次点 三三、一一二票 鈴木清（日本共産党・新）

二八、九一九票 川俣清音（日本社会党・元）

一四、九二八票 梁田正次郎（民主党・新）

六、三六一票 佐藤栄七（労働者農民党・新）

また、第二回参議院議員通常選挙秋田地区（昭和二十五年六月四日執行、投票率七二・二九パーセント）の候補者別得票数は次の通りである。

【秋田地区（定員一人）】投票率七二・二九パーセント

当選 一五六、七三九票 長谷山行毅（自由党・新） 当選回数一回

次点 一四六、七二七票 細野三千雄（日本社会党・新）

一〇三、一〇六票 石川準吉（国民民主党・前）

三一、九六六票 鈴木義雄（日本共産党・新）

(63) 『秋田魁新報』昭和三十年五月一日二面。

(いとう) ひろのり・秋田工業高等専門学校非常勤講師